

日医発第1087号（保232）
平成29年1月20日

都道府県医師会長 殿

日本医師会長
横倉義武

検査料の点数の取扱いについて

平成28年12月21日に開催された中央社会保険医療協議会（中医協）総会において新たな臨床検査（E2 1件）を保険適用することが了承され、それに伴い、今般、厚生労働省保険局医療課長から別添1のとおり取り扱う通知が示され、平成29年1月1日から適用となりました。

本通知の内容について、本会において別添2のとおり整理いたしましたので、貴会会員に周知くださるようお願い申し上げます。

本件につきましては、日本医師会雑誌2月号に掲載を予定しております。また、日本医師会ホームページのメンバーズルーム中、医療保険の「新たに保険適用が認められた検査・医療機器等」に掲載いたします。

（添付資料）

1. 検査料の点数の取扱いについて
（平28.12.28 保医発1228第1号 厚生労働省保険局医療課長）
2. 新たに保険適用が認められた検査（日本医師会医療保険課）

保医発1228第1号
平成28年12月28日

地方厚生（支）局医療課長
都道府県民生主管部（局）
国民健康保険主管課（部）長
都道府県後期高齢者医療主管部（局）
後期高齢者医療主管課（部）長 } 殿

厚生労働省保険局医療課長
（公印省略）

厚生労働省保険局歯科医療管理官
（公印省略）

検査料の点数の取扱いについて

標記について、「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」（平成28年3月4日付け保医発0304第3号）の一部を下記のとおり改正し、平成29年1月1日から適用するので、貴管下の保険医療機関、審査支払機関等に対して周知徹底をお願いいたします。

記

別添1第2章第3部第1節第1款D023微生物核酸同定・定量検査（10）中「又はLAMP法」を「、LAMP法又は核酸増幅とキャピラリ電気泳動分離による検出を組み合わせた方法」に改める。

◎「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」(平成28年3月4日付け保医発0304第3号)

改正後	現 行
<p>別添1 医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第2章 特掲診療料 第3部 検査 第1節 検体検査料 第1款 検体検査実施料</p> <p>D023 微生物核酸同定・定量検査 (1)～(9) 略 (10) 「8」の結核菌群核酸検出は、核酸増幅と液相ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、LCR法による核酸増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、<u>LAMP法又は核酸増幅とキャピラリ電気泳動分離による検出を組み合わせた方法</u>による。 なお、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。</p> <p>(11)～(21) 略</p>	<p>別添1 医科診療報酬点数表に関する事項</p> <p>第2章 特掲診療料 第3部 検査 第1節 検体検査料 第1款 検体検査実施料</p> <p>D023 微生物核酸同定・定量検査 (1)～(9) 略 (10) 「8」の結核菌群核酸検出は、核酸増幅と液相ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、LCR法による核酸増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法<u>又はLAMP法</u>による。 なお、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。</p> <p>(11)～(21) 略</p>

新たに保険適用が認められた検査

平成 28 年 12 月 28 日 保医発 1228 第 1 号（平成 29 年 1 月 1 日適用）

測定項目	D023 微生物核酸同定・定量検査 8 結核菌群核酸検出
商品名	ミュータスワコー MTB (和光純薬工業株式会社)
区分	E2 (新方法)
測定方法	PCR-CE法 (核酸増幅とキャピラリ電気泳動分離による検出を組み合わせた方法)
主な測定目的	喀痰又は培養液中の結核菌群DNAの検出 (結核診断の補助)
点数	D023 微生物核酸同定・定量検査 8 結核菌群核酸検出 410点
関連する 留意事項の 改正	※「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」(平成 28 年 3 月 4 日保医発 0304 第 3 号)の別添 1 (医科診療報酬点数表に関する事項)の第 2 章 (特掲診療料)を以下のように改める。(変更箇所下線部) 第3部 検査 第1節 検体検査料 第1款 検体検査実施料 D023 微生物核酸同定・定量検査 (1)～(9) 略 (10) 「8」の結核菌群核酸検出は、核酸増幅と液相ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、LCR法による核酸増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、 <u>LAMP法又は核酸増幅とキャピラリ電気泳動分離による検出を組み合わせた方法</u> による。 なお、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。 (11)～(21) 略

(日本医師会医療保険課)